



巻頭言

井上, 真理

(Citation)

研究紀要 : 神戸大学附属中等 論集, 8:[0]

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100487681>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100487681>



巻 頭 言

神戸大学附属中等教育学校 校長 井上 真理
(人間発達環境学研究科教授)

平成 28 (2016) 年度に創刊した『研究紀要 神戸大学附属中等論集』が本年度は第 8 巻を発行するに至りました。教育研究に関する各種論稿と本校の教育研究の記録を所収しています。

本校では、前期課程が新学習指導要領となったことに伴い、令和 3 (2021) 年度より研究テーマとして「国際的視野を持ち、真理探究の精神に富んだグローバルキャリア人を育成するカリキュラムと評価方法の研究—資質・能力をどのように育成し、どのように評価するのか—」を掲げ、神戸大学教員の協力も得ながら、教育実践研究および教育研究開発事業に積極的に取り組んでまいりました。例えば、社会科では指導助言者である石井英真先生(京都大学大学院教育学研究科)にご助言をいただきながら『ヤマ場をおさえる単元設計と評価課題・評価問題 中学校社会』(図書文化社)を発刊するなど、研究の成果を発信しております。

また、令和 2 (2020) ～令和 6 (2024) 年度までの 5 年間、「生涯を通じて新たな価値を創造し続ける文理融合型人材の育成— Education for 2070 —」を研究開発課題として SSH 事業に取り組んでいます。生徒たちが新たな課題に直面した際、いち早く課題を認識し、その解決に立ち向かうことができる力を本校の教育活動、SSH 事業を通じて身につけることを目指しています。

本年度は、昨年度の SSH 事業の中間評価において一定以上の評価いただいた、本校のオリジナリティのある取り組みを、さらに伸ばすとともに、進展の評価についてブラッシュアップを試みています。例えば、評価指標の改善に向けて各小単位で検討に取り組んでおり、その試行成果の一部として SSH に係る各学校設定科目に事業指標を設定し、第 5 年次での本格的実施に向け準備しております。

SSH 指定 1 年目に、スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会で文部科学大臣賞を受賞、2 年目には「ISLP International Poster Competition 2020-2021」の「Younger age division(born in 2004 and younger、lower secondary school)」で International winners 1st prize (世界 1 位) に輝き、3 年目には第 70 回統計グラフ全国コンクールにて特別賞の石橋信夫賞を受賞しました。本年度は、「第 19 回全国物理コンテスト 物理チャレンジ 2023 全国大会優良賞 2024 年物理オリンピック国際大会 日本代表選手候補者」、「数学・理科甲子園 2023(兵庫県大会)優勝 科学の甲子園 全国大会 兵庫県代表」、「神戸大学数理データサイエンスセンター主催第 3 回中学生・高校生データサイエンスコンテスト最優秀賞」、「日本霊長類学会第 39 回大会 中学・高校生発表 最優秀発表賞」、「日本鳥学会 2023 年度大会 高校生ポスター発表 最優秀賞」、「SSH 生徒研究発表会 ポスター発表賞」など、生徒たちが数多くの成果をあげています。

数々の受賞の背景には SSH 事業が大きく影響していますが、もとより本校では「グローバルキャリア人」の育成を教育目標に掲げており、新学習指導要領の方向性を踏まえた教科教育と資質・能力論、SSH 事業で取り組む課題研究や確かな知識、豊かな教養を獲得するための学校設定科目、それらを基盤として取り組む課題研究(卒業研究、Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト)、教育課程外で主体性・国際性・協同性などの様々な資質を育成する Future Innovator Training (FIT)、生徒の自治学習コミュニティを育てる Advanced Science and Technology Academy (ASTA) 等、様々な教育実践活動を行っており、授業、学年、部活動等の枠組を超え、生徒どうしが自主的に学び合う風土の形成が少しずつ進んでいます。

現在、そのような中で、神戸大学の教員や神戸大学学術研究推進室(URA)と連携し、大学との連携プロジェクトも進めているところです。中等教育学校教員にとっては、教育と研究とを考える必要があり、負担の多い部分もあるかとは思いますが、研究が教育に生かされることで本校ならではの素地がさらに育つことを祈っています。

この冊子が、今後も、生徒たちを育てる学校教育の現場における教育研究に資することを願ってやみません。

本冊子と共に、『研究紀要 神戸大学附属中等論集』別冊及び『令和 2 年度指定スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書第 4 年次』も併せてお読みいただき、忌憚のないご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。